

# 人工妊娠中絶・子宮内容除去術の説明書

## 【処置手順】

### 〈前処置〉

前日の夕方または当日の朝にラミケンを挿入し、子宮頸管を拡張します。

### 〈当日処置〉

- ① モニターを装着します。  
(血圧計・心電図・酸素飽和度モニターの装着)
- ② 静脈への点滴ルートを確認します。
- ③ 静脈麻酔剤により、眠った状態にします。
- ④ 手術(子宮内容の排出)を施行します。  
吸引装置・中絶器具を使用し、超音波診断装置にて確認しながら行います。
- ⑤ 術後、麻酔から醒めるまで1~2時間程度休んで頂きます。

## 【合併症】

### \*嘔吐

- ・手術に際してはかなり高頻度に嘔吐が認められます。  
嘔吐物が誤って気管に入らないようにするためにも、絶飲絶食の時間は守って下さい。

### \*喘息発作

- ・麻酔剤の副作用として出現することがあります。
- ・現在喘息の治療中の方、過去に喘息の治療をしたことのある方の場合頻度が高くなる傾向にあります。

### \*子宮穿孔

- ・極めて稀に、子宮の壁に穴が開き、最悪の場合には開腹手術や子宮摘出を要することがあります。

### \*多量の出血

- ・極めて稀に、多量に出血し、輸血や子宮摘出まで必要になることがあります。

### 〈術後〉

### \*子宮内容の物や凝血の遺残

- ・稀に、胎盤組織や子宮内膜の小片・凝血などが子宮内腔に遺残することがあります。
- ・この遺残は、術後検診に際して発見される場合も多く、更に、多量の異常出血の出現により発見されることもあります。
- ・遺残がごく少量の場合には、子宮収縮剤の追加内服を施行しています。
- ・遺残がやや多い場合には、子宮内容の再除去術が必要となります。

### \*細菌感染

- ・手術に際しては、子宮内面に無数の小さい傷ができるため、細菌感染に注意することが必要です。
- ・内服薬を指示通りに服用すること、術後の検診をきっちり受けること、外陰部の清潔を保ち過労を避けることなど、予防に十分な配慮をお願いします。
- ・万一、発熱や強度の腹痛などを認めた場合には、必ず受診して下さい。

手術に際しては、細心の注意のもとに慎重に対処いたしますので御安心下さい。

万一不可抗力の異常が発生した場合には、最大限その治療に努力致します。

患者氏名 \_\_\_\_\_ 印                      年                      月                      日